

タイトルは14pt,
ゴシック体

バスケットボールにおける優れた競技力をもつ選手 の状況の捉え方—ゲームの“流れ”に着目して—

章名は10.5pt
ゴシック体

○筑波 太郎 (所属 役職)

氏名(所属 役職)
12pt, 明朝体

1. 問題の背景と目的

バスケットボールにおいて、技術や身体能力を向上させることと並び、戦術力を高めることも重要である。戦術力を備えている選手とは、戦術的知識を有している選手ではない。ゲーム状況に合わせて適切な動きかたを即興的に選択実行できる選手が、戦術力を備えているといえる。そこでは、ゲームの“流れ”といった要素も捉えていると考えられる。

選手は「冷静に流れを読み、リードすることが大切」(2009.佐藤)といった指摘や、「ゲームの流れを敏感に知り、攻撃のリズムを保ったり、変えたりする」(2000.中川)ことの重要性、また、「ゲームの流れに応じた適切な戦術の選択」(2012.日高)が重要であるといった文言が、バスケットボールの指導書に記されていることから、プレーヤーにとって流れを読むということが必須能力であることは言うまでもないであろう。

引用は(発行年, 著者名)

一方、ゲームの流れを自然科学的視点から分析する研究は少なくないが(1985.Gilovich ; 2013.横山 ; 2013.浅井ほか)、調査対象となるゲームは既に過ぎ去ってしまっている。コーチング的視点から考えれば、いま、その瞬間のプレーのなかで選手自身が流れを敏感に感じ取り、適切なプレーを即興的に選択できる能力を育てることにほかならない。

本文は12pt
明朝体

2. 研究方法

優れた競技成績を有する選手を対象に、ゲーム状況の捉え方を明らかにするため借問を行った。

①対象者

対象者N(以下、N)の競技成績を下記に載せる。Nのポジションはポイントガードである。近年のバスケットボールにおいては、ポイントガードの役割はそのポジションを担う選手の特徴やチーム事情によって異なる。一般的なプレー内容としては、オフェンス時においてボールをドリブルによって運び、味方選手にパスを供給したり、パターンオフェンス^{注1)}を指示する。司令塔とも言われる。しかし、近年のバスケットボールにおけるポイントガードを担う選手は、スピードやシュート力の高い選手が多く、上記の役割のほか得点を取るためにドライブ^{注2)}や3ポイントシュートといった…

注釈はページ下, 文末
どちらでも構わない

^{注1)} 予め「パスのいく方向、人間の動きがあらかじめ計画されたプレーシステム」(2002.日本バスケットボール協会編)である。オフェンス時に優位な状況を作るために行う。実践現場では、コールプレーともいう。

^{注2)} ドライブとは、「ボール保持者がドリブルをしながらゴール方向へ移動すること」(2002.日本バスケットボール協会編)である。

表上にタイトルを記入し、本文中に挿入する

表1 対象者Nの競技成績

Nのプレイスタイルは、実業団入団当時、チーム内において得点を取るプレイヤーが他にいないこともあり、得点を取るプレーを続けていた(表1)。しかし、年齢を重ねることで体力が低下したことにより、従来のような得点を取るプレイスタイルを継続することはできなくなっていった。そこで、「自分が得点を取らずに勝つためには、どういったプレーをすればいいのか」と突き詰めていった結果、今まで以上にプレー状況を把握することが求められ、より高次のレベルで状況を把握できるようになったと自身のプレー経験を振り返っている。

対象者 N			
ポジション	PG (ポイントガード)		
主な成績	中学	1997	全国中学校バスケットボール大会 準優勝
	高校	1999	国民体育大会 第5位 ウィンターカップ ベスト16
		2000	全国高校総合体育大会 ベスト16 ウィンターカップ ベスト16
	大学	2001	関東大学1部リーグ戦 第4位 全日本学生選手権 第3位
		2002	関東男子バスケットボール新人戦 優勝 関東男子リーグ戦 第4位 全日本学生バスケットボール大会 優勝
		2003	関東男子トーナメント大会 第3位 関東男子リーグ戦 優勝 日本男子学生選抜大会 優勝
		2004	関東男子トーナメント大会 優勝 関東男子リーグ戦 準優勝 全日本学生バスケットボール大会 準優勝 日本男子学生選抜大会 準優勝
	実業団	2007	全日本実業団バスケットボール選手権大会 優勝 全日本社会人バスケットボール選手権大会 優勝
		2010	全日本社会人バスケットボール選手権大会 優勝
		2011	全日本実業団バスケットボール選手権大会 優勝
2012		全日本実業団バスケットボール選手権大会 優勝 全日本社会人バスケットボール選手権大会 優勝 全日本実業団バスケットボール競技大会 優勝	
2013		全日本実業団バスケットボール選手権大会 優勝	

②調査期間、調査時間

図表を挿入すべき箇所を文中にも記入する

借問は3回に分けられた。一回目の借問では、筆者があらかじめ用意していた質問内容をきっかけに対話を続けていった。二回目は、一回目で得られた借問内容を筆者がまとめ、まとめた内容をもとにさらに借問を行った。三回目では、より具体的な「状況の捉え方」に関する内容を取り出すため、Nが過去に出場した試合の

3. 結果と考察

借問内容をもとに考察した結果、Nの状況の捉え方が明らかとなった(図1)。以下、Nの状況の捉え方について、借問内容をもとに説明する。

図の下にタイトルを記入し、文中にも記入する

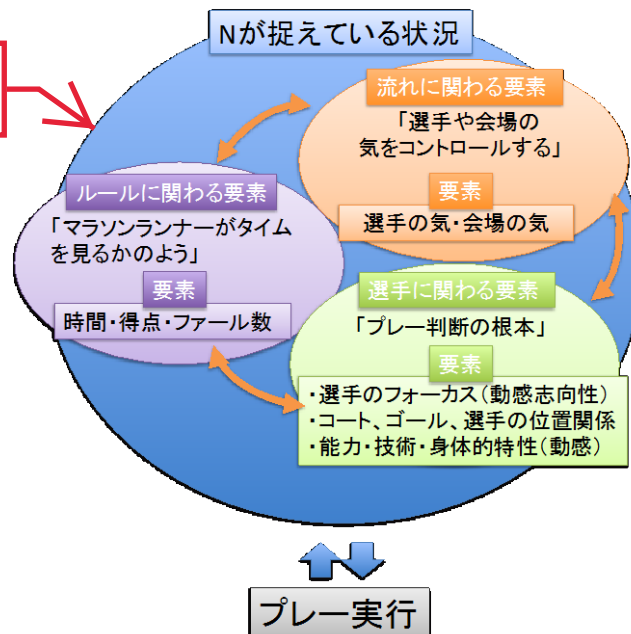


図1 対象者Nの状況の捉え方

4. まとめ

本論の目的は、優れた競技力を備えた選手のゲームの流れを中心とした状況の捉え方を明らかにすることであった。選手は、ゲームの流れが選手や会場の気（感情）によって成り立っていると捉えており、また、ゲームの流れをコントロールするために、選手や会場の気（感情）を高めるための声かけやプレー選択をしていることが明らかとなった。

文献

- 1) 浅井雄輔, 佐川正人 (2013) バレーボールの試合における「流れ」の推移と試合状況について. コーチング学研究, 第27巻. pp.9-21.
- 2) 佐藤久夫 (2009) 試合で勝てる! バasketボール 最強の戦術. メイツ出版. p. 94
- 3) 中川 恵 (2000) スーパースターに学ぶBasketボール. ナツメ出版. p. 169
- 4) 中瀬雄三 (2013) Basketballにおける状況の構造を読み解く身体知に関する考察. 日本スポーツ運動学研究
- 5) 日高哲郎 (2012) Basketball 戦術の基本と実戦での生かし方. マイナビ. p. 148
- 6) 小川 侃 (2001) 雰囲気と集合心性. 京都大学学術出版会. p. iii
- 7) 横山慶子 (2013) 集団スポーツのダイナミクス. スポーツ心理学研究, 第40巻 (2) .pp.1-8



文献は、著者名（発行年）タイトル、発行元（論文の場合、巻、号も明記）、ページの順とする